

東海地区

学校事務会報

第137号

令和5年3月17日

発行: 東海地区公立小中学校事務研究会

<http://tougaijimuken.sakura.ne.jp/>

今年度の各県の研究活動について報告します。

愛知県公立小中学校事務研究会 研究報告



「協働・創造・発信！ チームでつなぐ子どもたちの笑顔」

～ 教職員や地域の人々とともに子どもたちの笑顔あふれる学校づくりの推進 ～

愛知県公立小中学校事務職員研究会は、「協働・創造・発信！ チームでつなぐ子どもたちの笑顔」をテーマに、愛知における学校事務のグランドデザイン「あい・学校スマイルプラン」のミッションである「教職員や地域の人々とともに子どもたちの笑顔あふれる学校づくりを進める」の実現を目指し、「チームとしての学校づくり」、「地域とともにある学校づくり」、「学校づくりを推進する共同実施組織」の三つの重点目標を掲げ、具体的な展開・推進を目指した研究・研修及び実践活動を進めております。

学校における働き方改革や共同学校事務室の推進など、学校事務を取り巻く環境が大きく変化する中、コロナ禍における研究会活動も3年目となり、これまで愛知事務研が行ってきた各種事業について様々な視点で見直しを行い、時代に合った研究会活動のあり方を模索する1年となりました。

1 共同学校事務室のモデルプランの提示と検討

共同学校事務室のあり方について再検討するとともに、先進地区の取組事例を参考にしながら「共同学校事務室のモデルプラン」について研究を進め、東海（愛知）大会の分科会発表「学校事務サイコウ論」（愛知事務研・研究開発部が担当）の中で、提案・発表を行いました。

2 研修の体系化と学校事務職員のキャリア形成についての具体化

愛知県教育委員会が主催する「市町村立学校事務職員研修検討会議」において、学校事務職員の研修や能力形成についての検討を進め、「愛知県市町村立学校事務職員研修計画」の策定に向けた協議を行いました。

3 東海大会の運営と分科会発表

令和4年11月25日に蒲郡市民会館において、第54回東海（愛知）大会兼県大会を3年ぶりの参集方式で開催しました。新型コロナウイルス感染症対策のため、当初予定していた大会日程を変更し、分科会発表を中心とした半日日程にするとともに、後日、分科会発表の動画配信を行うなど、コロナ禍における研究大会を実現することができました。

また、研究開発部が「学校事務サイコ論 ―校務運営参画を見据えた愛知の学校事務の「再考」と「再構」―」と題し、分科会発表を行いました。

4 ICT環境の整備と学校事務職員

学校教育に関わるデジタルトランスフォーメーション（DX）の動きを注視し、教育DX・校務DX等の展開において学校事務職員が積極的に関わりを持ち、新しい時代の学校事務をつかさどる者となるために必要な能力などについて検討を進めています。

5 地域連携に関する取り組みに対する情報提供

「コミュニティ・スクール等状況調査」を実施し、愛知県内における地域連携の取組状況の実態把握を行いました。また、調査結果について、愛知事務研ナレッジサイトへ掲載するなど、会員に向けた情報提供を行いました。

静岡県公立小中学校学校事務職員会 研究報告

「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」を目指して



静岡県公立小中学校学校事務職員会のテーマ「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」を具現化するため、専門委員会・特別委員会を設置して、活動を推進しました。それぞれの活動内容は次のとおりです。

【専門委員会の活動】

I 研究推進委員会

- ・研究推進委員会の開催（9/22※オンライン開催、1/13）
- ・県大会の推進（8/3、8/4 オンライン方式 8/5～オンデマンド配信で開催）
大会テーマ 「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」
サブテーマ ～未来につながる主体的な事務職員～

II 広報委員会

- ・研究冊子「ときめき かかわり 未来へつなぐ」への原稿提供
- ・広報誌「はばたき」WEB版の編集・発行
- ・「学校事務研究集録69号」の編集・発行
- ・ホームページの運営の維持・管理

III 学校事務改善委員会（活動休止）

IV リーダー育成委員会（活動休止）

【特別委員会の活動】

I 事務提要編集委員会

- ・事務提要編集委員会の開催（随時）

II グランドデザイン策定委員会

- ・令和5年度中のグランドデザイン発刊を目指し、グランドデザイン策定委員会の開催、アンケートの実施



子どもたちの豊かな育ちを実現する学校事務

－ 校務運営をサポートする共同実施の推進 －

岐阜県小中学校教育研究会事務職員部会では、この研究テーマの下に研究活動を行ってきました。学校事務職員として「子どもの幸せ」を念頭に置き、教育活動を充実させるための諸条件の整備に心がけるとともに、資質・能力の向上に努め、主体的・積極的に校務運営への参画を図っているところです。サブテーマに「校務運営をサポートする共同実施の推進」を掲げ、岐阜県型共同実施「学校運営支援室」による組織としての体制整備・強化が不可欠のものと考えています。県内全市町での設置を目指すとともに、その効果を確認しながら課題解決のあり方を探究し、研究テーマの実現を図っています。

新型コロナウイルス感染症の影響のため、代議員会はリモートで行いました。初めてのリモート開催となりましたが、セッティングや進行など試行錯誤しながら進めることができました。そのノウハウをいかし、スキルアップ研、秋季研修会もリモートで行い、充実した研修会となりました。遠方へ行かなくても研修に参加できるということもあり、スキルアップ研においては、予定人数よりも多くの会員が参加しました。秋季研はリモート開催と後日にホームページによる動画配信を行ったことで、当日参加できなかった会員も自分の都合がつく時間に動画をみて、研修を受けることができました。今後、参集型とリモート型のそれぞれのメリットを生かした研修を行い、会員相互の資質向上を図っていきます。

【活動内容】

- 1 代議員会（リモート開催）
- 2 秋季研修会（事務の日セミナー・共同実施室長等リーダー研修・講演）
 - (1) 開催時期
 - Live配信 令和4年10月27日（木）
 - 動画配信 令和4年10月28日（金）～令和4年11月20日（日）
 - (2) 内容
 - ① 本部・専門部報告
 - ② 事務の日セミナー
 - 講演：「チーム学校」における事務職員への期待
 - 岐阜県教育委員会 教職員課教育主管 兼 教育管理課教育主管 青木 孝憲 様
 - ③ 室長等リーダー研修
 - 令和3年度中央研修伝達講習
 - ④ 秋季研修会
 - 講演：共創する学校事務を目指して
 - 豊橋市教育委員会 教育政策課 事務指導主事 中 広行 様
- 3 スキルアップ研修（リモート研修）
- 4 専門部活動 総務部・研修部・研究部・特別部
- 5 会誌及び会報「おんさい」の発行、事務日誌の発行、ホームページの管理運営
- 6 新しい学校事務体制の研究推進
- 7 県校長会、県教育委員会との懇談



子どもの豊かな育ちを実現する学校事務

－（年次テーマ）資源の充実・活用－

三重県公立小中学校学校事務研究会では、「子どもの豊かな育ちを実現する学校事務」を研修主題とし研修をおこなっています。新型コロナウイルスの影響で1年延長となり、5年目となった「第8期中期研修計画」の年次テーマは、「資源の充実・活用」としています。

今年度も新型コロナウイルスの影響で様々な制約の中、その時々状況にあわせてZOOMによるオンライン形式、ビデオ配信、参集形式での研修を以下のようにおこないました。3年ぶりに開催することができた研究大会等、工夫をしながら実施してきた今年度の活動をおして研修の大切さをあらためて確認することができました。

来年度から始まる「第9期中期研修計画」でも、オンライン等新しい形での研修方法を取りいれながら会員相互の活発な交流と実践につながるような研修となるようすすめていきます。

第1回研修講座（5月） ZOOMによるオンライン形式

- ・講演 株式会社 内田洋行
「教育ICTの状況等について」

第2回研修講座（7月） 参集形式、後日ビデオ配信

- ・中央研修還流報告
- ・第9期中期研修計画の提案
- ・講演 四日市大学 副学長 小林 慶太郎さん
「ご当地グルメでつながる人と地域」

第58回三重県公立小中学校学校事務研究大会（10月） ZOOMによるオンライン形式

- ・講演 文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部 計画課整備計画室長 廣田 貢さん
「自ら未来を切り拓く事務職員になる」～今を見つめ、未来へ踏み出す～
- ・10支部による実践レポート発表
テーマ 「資源の充実・活用」

第3回研修講座（10月） ZOOMによるオンライン形式

- ・講演 伊勢市立御薊小学校 教頭 中村 太志さん
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学校づくり



第 54 回 東海地区公立小中学校事務研究大会愛知大会



大会テーマ 「学校・家庭・地域、次代へつなぐ学校事務の創生」
期 日 令和4年11月25日（金）
会 場 蒲郡市民会館
参 加 者 1,280名（資料参加含む）
公立小・中・義務教育・特別支援学校事務職員
その他学校事務担当職員 教育委員会事務局職員及び教育関係者ほか

内 容

（1）分科会発表

- ① 三重県 津支部
事務改善からつなげる教育支援について
－財務事務をとおした若手学校事務職員による実践事例について－
- ② 愛知県 研究開発部
学校事務サイコウ論
－校務運営参画を見据えた愛知の学校事務の「再考」と「再構」－
- ③ 岐阜県 可児郡
笑顔でつながる 安心・安全な学校をめざして
－小さな町の学校事務職員（わたしたち）ができること－
- ④ 静岡県 志太地区
子どもたちの笑顔のために 私たちができること
－協働・支援を通して－

（2）オンラインによる動画・資料配信

- ① 行政説明
「文部科学行政をめぐる最近の情勢について」
文部科学省 初等中等教育局 初等中等教育企画課 課長補佐 一色 潤貴 様
- ② 三重県・愛知県・岐阜県分科会
分科会動画配信、資料配信
- ③ 開会行事
東海事務研会長あいさつ、第55回静岡大会PR





お礼のことば

第54回東海地区公立小中学校事務研究大会愛知大会

実行委員長 長岡 則夫

第54回東海大会愛知大会は、3年ぶりとなる参集にて開催することができました。本大会開催にあたり、文部科学省、東海4県教育委員会、蒲郡市教育委員会をはじめとする教育機関・関係団体のご後援とご支援を賜りましたこと、深く感謝いたします。

新型コロナウイルス感染症の感染状況が収まりきらない中での開催となりましたが、当日参集1,168名の予定の中、977名の皆さまに会場まで足を運んでいただきました。諸事情から会場参加を躊躇された方も多くいたことと思います。そのため、分科会担当の皆さまにはご迷惑をおかけしましたが、大会後に動画配信を行う等を準備いたしました。また、午前中に予定していました、文部科学省による行政説明も中止とし、午後からの開始と変更をいたしました。度重なる変更により、多くの皆さまにご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

今大会では、いくつかの新たな試みをいたしました。

- ① 研究集録の冊子配布の廃止（参加申込者に限定したデータ配信）
- ② 分科会発表の設定時間を約180分から90分への短縮
- ③ 地区による実行委員会を設けずに県事務研の専門部がその機能を担う

①については、データ配信により大会開催に係る費用の削減。そのことによる大会参加費の減額とすることができました。また、会場での冊子配布がないために、受付の流れをスムーズにすることができました。②については、設定時間を短縮することにより、会場配置がコンパクトになり開催に伴うスタッフを減らすことができました。③については、運営側の話となりますが、これまで開催担当となった地区は負担が大きかったですが、少人数での運営の可能性を示すことができました。

新型コロナ感染症の感染対策を行いました。健康チェックシートの準備等でお手数をおかけしました。これからも、新型コロナ感染症対策が続くかもしれませんが、すぐには従来のような大会の形にはならないかもしれませんが、新たな大会の形を模索しながらも、多くの仲間が集い語り合う大会が続いていくことを心から願っております。

本大会開催までに多くの皆さまのご尽力をいただきましたことに愛知大会実行委員会一同より感謝申し上げます。ありがとうございました。



愛知県額田郡幸田町立幸田小学校 磯貝 洋介
第1分科会（三重県 津支部）

第1分科会（三重県津市）では、現在どの地区でも課題となっている経験年数の少ない事務職員の急増とその育成について、津市独自の研修を通じて解決を目指す取り組みについて発表されました。

津市では、三重県教育委員会が主催する採用時の研修と経験10年研修の空白を補完し、経験年数の少ない事務職員の育成を目指した研修として「5年未満研修（＜新採編＞、＜基礎編＞、＜改善提案編＞）」を市独自で設定し、人財育成と事務改善の取組みを進めています。分科会発表は、5年未満研修＜改善提案編＞の取組みとして、日々の職務の中で勤務校の現状を見直すことで課題を見つけ、共同学校事務室の活用や教員との協働を通して、事務職員から改善の提案を行うことにより学校教育を支援するという、若手学校事務職員の奮闘と成長が伝わる内容でした。

また、参加者の間で行われた意見交換では、市町村における研修制度の差や少経験者をどう育成していくかについて、他地区の様子を知ることができました。県内だけでなく、他県の情報を得られるのも、参集による東海大会の成果であると実感しました。

世代交代が進み、世代間格差が問題となる中、年配から若手が学び、若手から年配が学ぶ協働関係を構築し、『子ども第一の学校経営』のために一丸となった『チーム学校』の構成メンバーになって欲しい』との助言者の言葉を体現する実践を津市の研修に感じられる分科会でした。



三重県いなべ市立石榑小学校 林 亜里沙
第2分科会（愛知県 研究開発部）

目指す学校事務職員像として、校務運営に参画する企画提案型事務職員や、それを支援する共同学校事務室の在り方について、「副担当校制」「業務分担制」「研修・メンター制」「ICT活用」の4つの項目に分けて提案がありました。自分ひとりで学校の職務を担うのではなく、複数で対応できる仕組みや、業務のスリム化に着目しているところに魅力を感じました。また今ある共同学校事務室をより発展させていくために、視点を増やすことの重要性を学びました。

続いて座談会がありました。子どもたちと学校、学校事務職員みんなが「最高」となる、役割と働き方をテーマに、話し合いが行われました。校長先生や教育委員会、共同学校事務室長、若手事務職員と、様々な立場・年齢の方から多様な意見が出されました。校長先生からは、共同学校事務室に対する安心感や信頼、感謝について述べられ、その期待に応えられるよう、気持ちを新たにすることができました。

この第2分科会では、会場の皆さんが随時コメントを投稿でき、リアルタイムで様々な意見を共有することができました。興味深い意見が多かったので、最後まで新鮮な気持ちで視聴することができました。



静岡県島田市立五和小学校 櫻井 寛之
第3分科会（岐阜県 可児郡）

岐阜県可児郡は「学校安全」「スリム化」を重点に置いた発表でした。発表の中で「自校だけではなく御嵩町内全小中学校を自分の学校と捉えて」という言葉がありましたが、まさにそれを基本姿勢とした活動をされていることが窺えました。だからこそ「予算要求時の連携」や「給食費の公会計化を目指した学校徴収金事務の統一」といった発想が生まれ、実現に向けて組織として行動をしていけるのだと納得しました。

また、発表の後半では、校長会や教育委員会といった他の機関とも調整・連携を取り、実際に成果を出せていることがわかりました。これも可児郡が組織としてきちんと機能しているからこそその結果だと思います。人数が少ないが故にメンバーが変わってもその機能を維持していけるかどうか危惧されていましたが、基本姿勢がしっかりとされている可児郡さんならきっと大丈夫！と思えるような発表でした。



岐阜県美濃加茂市立西中学校 廣瀬佳世子
第4分科会（静岡県 志太地区）

志太地区の研修の一つであるワークシートを用いた研修の実践紹介では、学校徴収金の未納という課題に対し、校内で情報を共有し、困窮家庭に必要な支援や、保護者と外部機関をつなぐ役目をするなど、いろいろな立場の方々と積極的に連携を図り、大きな成果をあげられている内容でした。また地区の研修会でのワークシートを用いた実践発表では、交流をすることで、OJTによるスキルアップにもつながっています。志太地区では、事務部経営案の作成に取り組まれているとのことでした。岐阜県では、経営案の作成はまだ一部での取り組みとなっています。このワークシートの実践が事務部経営案作成のヒントになるのではないかと思います。

共同学校事務室は、3市の実情に沿った運営形態を確立されていました。自校以外の業務を行うことへの理解や集中処理業務にメリットを感じていると反省評価が好転しているとのことでした。他校事務職員との連携を強化し、事務処理の集中化や統一化した事務処理による業務改善・OJTによる事務職員のスキルアップを着実に行われてきたからだと思います。意識を変えていくことが、新しい協働の在り方、共同学校事務室への一歩につながると感じました。

3年ぶりの参集での東海大会。みなさんと直接お会いして研修ができたことを嬉しく思っています。

第54回全国公立小中学校事務研究大会（愛媛大会）視聴報告



愛知県海部郡蟹江町立蟹江中学校 田上博基

第4分科会（香川支部）

「令和！めざせ！進化系事務職員

－二刀流ならぬ三刀流？ユーティリティプレイヤーへの挑戦－

香川支部（香川県公立小中学校事務職員協会研究部）のこれまでの研究の積み重ねと現在の第3次中期研究計画を軸にした「次世代の人材育成」について考察された提言で、「主体性」をキーワードにしたこれからの事務職員やそのキャリアについての分科会発表でした。

香川支部ではこれまでの研究で、キャリアに応じた研修を具体化し事務職員の人材育成を冊子として発行するなどキャリア・人材育成についてとても深く研究され、実際の研修についても整備されていました。具体的には、香川県教育センターや市町村教育委員会、事務職員協会のそれぞれの研修を体系図にし、共同実施のOJTとあわせてキャリアや職名に応じた研修を自らが積極的に受講できるようになっています。

研究会が行う提案や研修を、公的研修制度や共同実施組織での研修と結び付け形にするのは簡単なことではなく、いかに香川支部が人材育成に関して研究を続けられ、努力をされたのかは提案以上に感じることができました。

本提案のメインである事務職員の人材育成については、平成27年度に冊子を発行して以来、研究を続けられており、令和元年度には「主体性」のもとになる一つである「研修を受ける側」の視点を踏まえてアップデートされています。時代の流れやニーズに沿って、これまでの研究に新たな要素や価値を足していくことができるのは、過去の研究に敬意を払い、新たな研究を積み重ねていくという継続性のある強い研究組織だからできることを感じました。

また、香川県では令和4年3月に香川県教育委員会策定の人材育成方針が出されており、そこでは事務職員のキャリア形成がしっかりと示されていました。キャリアステージに応じた人事異動が示されており、知事部局への異動や大学院内地留学などが実現しており、学校職員としてだけでなく行政職員としてのキャリアアップができるようになっています。これまでの香川支部の研究が実を結んだとても大きな成果と感じました。

研究協議では、人材育成の実践として、若手事務職員の実践も報告されました。「事務職員の人材育成方針」冊子の活用し、「学びの記録」「自己目標管理シート」を使った自らが目標管理を行う実践報告でしっかりと若い世代にも根付いていることが確認できました。また、「年間研修カレンダー」「研修チェックシート」などの具体的な資料も用意されており他支部でも実践や参考にしやすいものでした。

理想である目標を掲げて、理想に向けて実践する。研究会の肝ともいえる理想と実践のバランスがとれた素晴らしい提案であり、香川支部の努力と成果を十分に感じられました。本大会はオンラインの協議ではありましたが、司会者の素晴らしい取り回しと提案者の想いにより、現地にいるような熱を感じられた分科会発表でした。

第55回

東海地区公立小中学校事務研究大会

静岡大会

大会テーマ

「学校・家庭・地域、
次代へつなげる
学校事務の創造」

【午前の部】

- ・東海事務研 新研究テーマ発表
- ・東海事務研 研究プロジェクトチーム発表
- ・パネルディスカッション

【午後の部】

- ・静岡県の学校事務・事務職員の
未来を考えるパネルディスカッション(仮)

配信会場

三島市立北小学校

視聴場所

全国どこからでも



1:35 / 3:40



開催日 令和6年2月9日(金)

開催方法 ライブ配信 (You Tube)

主催 東海地区公立小中学校事務研究会

主管 静岡県公立小中学校事務職員会